令和８年７月30日

はりまや地区
地区別事前復興まちづくり計画
ワークショップ資料

目　次

ワークショップの進め方 P2

第１回ワークショップの振り返り（ワーク１・ワーク３） P4

意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう P7

第１回ワークショップの振り返り（ワーク２） P9

意見交換：修正復興パターン（案）の提示 P24

ワーク４：速やかに復興するために必要なことってな～に？ P27

次回開催のご案内 P28

ワークショップの進め方（全体）

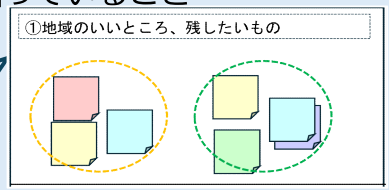
第１回ワークショップ（計100分）

済 R8.4.14

・事前復興まちづくり計画の目的
・地区の現状と課題を説明　（10分）

ワーク１　地区のいいところ・残したいもの 困っていること　（25分）

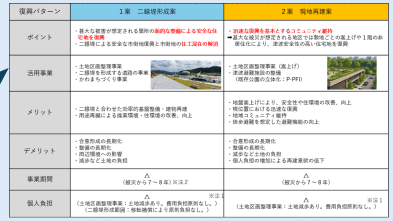
Point
被災後の「ビジョン=目指すべき姿」へつなげる



・復興パターンの概要説明　（10分）

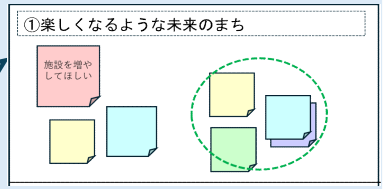
ワーク２　復興パターンについて感想　（25分）

Point
復興パターンに対する意見を述べてもらい
第2回目に修正案を提示



ワーク３　楽しくなるような未来のまちを想像する　（25分）

Point
ゾーニングに対する意見を引き出す



・まとめ（5分）

目標　自分の地区の特徴を知ってもらい、復興パターンの意見をもらう

第２回ワークショップ（計100分）　R8.7.30

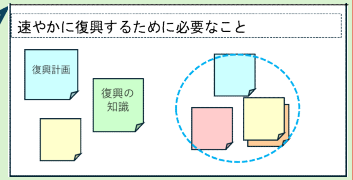
・第1回ワークショップ振り返り（ワーク１、ワーク３）　（15分）
・目指すべき姿(案)の提示　→ 意見交換１（25分発表込み）

・第1回ワークショップ振り返り（ワーク２）
・修正復興パターン案の提示　→ 意見交換２

（説明10分　ワーク20分　発表5分）

ワーク４　速やかに復興するために必要なこと　（20分）

Point
・被災後の自立再建を意識してもらう
・復興でのすべきことを知ってもらい復興中の活力につなげる



・まとめ（５分）

目標　復興ビジョンを取りまとめ、修正復興パターンの意見をもらう

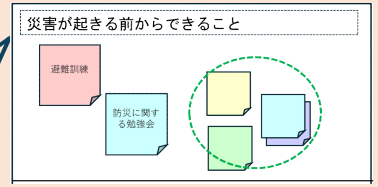
第３回ワークショップ（計100分）

・第2回ワークショップ振り返り（意見交換１）
・最終目指すべき姿(案)の提示
・第2回ワークショップ振り返り（意見交換２）
・最終復興パターン案の提示　→ 意見交換３（50分発表込み）

・第2回ワークショップ振り返り（ワーク４）

ワーク5　災害が起きる前からできること　（35分発表込み）

Point
防災意識の向上
地域での防災活動の啓発



・まとめ（15分）

目標　復興パターンの取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進められるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!

被災後　被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



○本日のワークショップの進め方



①第１回目の振り返り（ワーク1、3）（18:35～18:45）

②意見交換：地区の目指すべき姿＝ビジョンについて（18:45～19:10）



③第１回目の振り返り（ワーク2）

意見交換：修正復興パターンについて（19:10～19:45）



④速やかに復興するために必要なこと（19:45～20:05）





⑤まとめ（20:05～20:10）

第１回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク１

中央地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて、
意見を共有しましょう。

ワーク２

復興パターン２案について意見を共有しましょう。

ワーク３

楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。



第１回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク１　中央地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。

★中学生意見　（一部抜粋）

項目＼地区	良いところ 残したいもの	困っていること
安全安心なまちの再生	防災公園がある（弥右衛門公園） 新しい家が多く、耐震化が進んでいる JR高架化で便利になった 坂道が少なく高齢者が移動しやすい 避難ビルに対応している建物が増えている	地盤が弱いため、地盤沈降や液状化が心配 道路幅が広くなると高齢者が渡りにくい 通過交通が多い ★住宅が密集している場所での建物倒壊や火災が心配 ★住宅地に入ると道が狭い ★街灯が無く暗い道がある ★道路が狭く自転車の通行が危険
住まいと暮らしの再建	フットサル場や温泉など、人が集まる場所がある 地球33番地、藁工倉庫周辺の遊歩道を残したい 銀行、病院、郵便局などが多く便利である 買い物は徒歩圏内で済ますことが出来る JRや電車など交通の便がよい ★商業施設が多く、住みやすい ★保育園や学校を残したい（思い出がつまっている）	駐車場が増え都市部に空き地が多い 集会所がある地域とない地域がある 魚屋、八百屋などが減少し徒歩で買い物に行けなくなった ★場所によっては公共交通が少ない
なりわいの再生	とさのさと、アグリコレットなど多くの商業施設を残したい 愛宕商店街を残したい 規模は小さくなったが、金曜市があり今後も残したい	江ノ口小学校周辺はスーパーが少なくなった ★商店街に活気がなくなった
歴史・文化の保全と継承	多賀神社を残したい 昔ながらの地名を残したい ★路面電車を残したい ★よさこい、花火大会、土曜夜市などのお祭りを残したい ★山などのきれいな自然も見られる	神社でのお祭りが無くなっている 区民運動会が無くなった
地域共生社会の実現	コミュニティが強く、世代を超えた繋がりがある マンション単位で防災訓練がある コミュニティスペースがあるため市営住宅を残したい ★活発で明るいまち	空き家・空き地が多く、樹木等の管理ができていない 津波避難ビルは多いが、有事の際に中に入れるか心配 マンション住民との交流が少ない ★地域の繋がりが薄い

第１回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク３　楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。（一部抜粋）　★中学生意見

今のまちを残したい

★今のまちが便利であるため、そのまま残したい
・路面電車を残し、街のシンボルにしたい
・昔ながらの地名を残したい
・桜道を残したい



交通の利便性を上げたい

★路面電車の便を増やし、通る範囲も広げたい
・真っ直ぐな道路を活かし、自動運転バスを整備したい
・小型バスを巡回させたい



にぎわいのあるまちにしたい

・江ノ口川の南側にもにぎわいエリアを整備したい
・マルシェが開催できる場所を整備したい
・世代を問わない複合施設があれば良い
（高齢者施設、保育園、スーパー等）
・屋台を整備したい
・観光地を線で結び、その移動時間も楽しめるような交通網を整備したい
・五台山までのロープウェイを復活させたい
・韓国のハンガンのように、川沿いで高知名物が食べられると良い
★新たに公園を整備したい





地域コミュニティを強めたい

★コミュニティの強いまちを作りたい
★地域住民が集める集会所を作りたい
★地域活動やイベントを増やしたい
・コミュニティ作りの教育を強化したい



災害に強いまちを作りたい

・地区全体を浮島にし、液状化や地盤沈降に強いまちを作りたい
・住民の防災意識が高いまちを作りたい
★避難場所となる公営住宅を整備したい



弘化台

・弘化台を観光に活かしたい
・弘化台に大きい商業施設を整備したい



意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう

安心安全なまち再生

・災害に「も」強いまち

キーワード
津波避難ビル
狭い生活道路の改善
住宅のインフラ（橋など）の耐震化



住まいと暮らしの再建

・多世代が快適に住み続けられる環境整備



キーワード
路面電車等の公共交通の利便性の向上
バリアフリー化、歩道の拡幅、街灯の整備
医療機関やスーパー、子育て施設の維持
マンションと戸建てが共存する住みやすい街

なりわいの再生

・地域の資源を活かした「賑わい」と「交流」の創出

キーワード
愛宕商店街や卸売市場等の再生、個人店の支援
鏡川や江ノ口川沿いの遊歩道整備、憩いの場



歴史・文化の保全と継承

・地域の誇りと美しい景観を次世代へつなぐ



キーワード
多賀神社などの神社仏閣、史跡等の保存
よさこい祭り、秋祭りなどの継続
桜並木（堀川沿いなど）の維持、川の風景を守る
地域の歴史が刻まれた古い地名を大切にする

地域共生社会の実現

・顔の見えるつながりの維持・強化



キーワード
地域のつながりが良い
地域の人が集える施設
マンション住民も参加しやすいコミュニティづくり



意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案１（第１回ワークショップで提示済み）「コミュニティ・多世代」を主軸とする案

『世代を超えてつながる　安心とにぎわいが持続するまち』

高知市中心部、都市機能誘導区域を含むエリアにおいて、職場と住まいが近接した、歩いて暮らしやすい都市構造を生かしながら、子どもから高齢者まで、多様な人たちが共に暮らせる復興を目指す。通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能を身近に備えた高知市中心部に、人々のにぎわいと笑顔が自然と集まり、誰もが自分らしく、楽しく、災害に強く、安心して日常を送ることができるまちへと再生していく。

案２（ワーク１～３の意見を踏まえた案）「防災・利便性」を主軸とする案

『いつもの便利がもしもの安心へ　利便と防災が融合する災害にも強いまち』

中央地区は、路面電車や充実した周辺施設など、日々の暮らしやすさが大きな魅力となっています。普段の便利な生活を守りながら、それが災害時の安心にもつながるよう備える「災害に“も”強いをキーワードに、普段の延長線上にある防災」を目指すものです。マンションで暮らす人も、戸建てで暮らす人も。互いの顔が見える距離感の中で、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまちを目指します。

案３（ワーク１～３の意見を踏まえた案）「資源・にぎわい」を主軸とする案

『歴史文化と安心を守り抜く　笑顔あふれるにぎわいのまち』

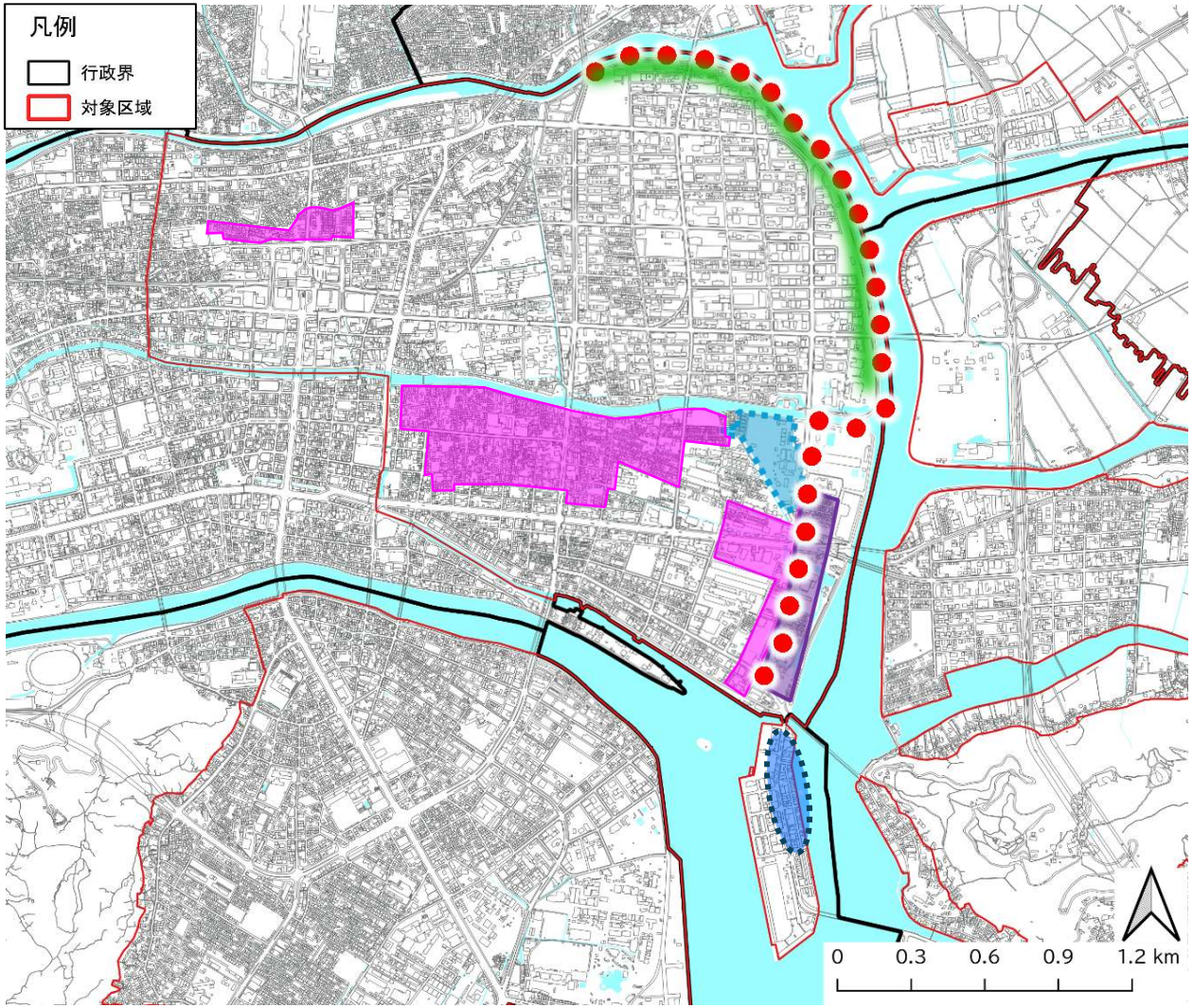
これまで大切にしてきた「よさこい祭り」や地名に宿る記憶は、地域コミュニティの絆そのものです。この大切な歴史文化を「日々の安心」という土台の上に守り抜き、次の世代へと継承していきます。商店街や市場でお買い物を楽しみ、その活気を育むことは、誰もが暮らしやすい「安全なまち」を創ることにもつながります。安心して歩ける川沿いの散歩道や、誰もがワイワイと交流できる場所をみんなで守り、笑顔がたえないまちを目指します。

第１回ワークショップの振り返り

ワーク２　復興パターン２案について意見を共有しましょう

【第１案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



土地区画整理事業
道路基盤整備検討

移転元　内陸移転

移転先　丸池公園周辺用地の有効活用
空き家を活用した差込み移転

移転元地の有効活用
工業系移転候補地として活用

にぎわい形成
二線堤を活用した、かわまちづくりの検討

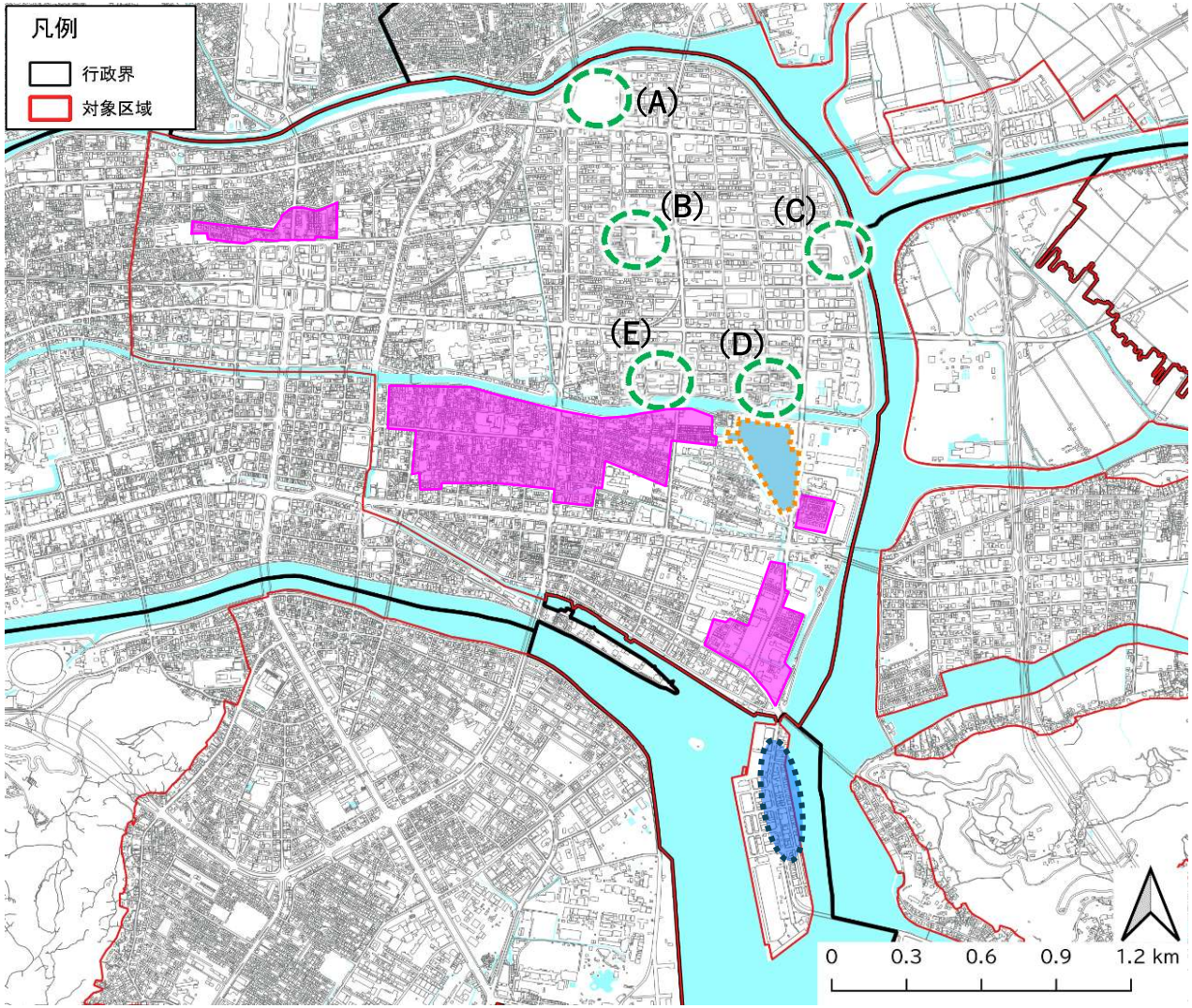
二線堤

第１回ワークショップの振り返り

ワーク２　復興パターン２案について意見を共有しましょう

【第２案】現地再建案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



(A)　防災拠点（弥右衛門公園）

(B)　防災拠点（北御座公園：立体都市公園）

(C)　防災拠点（南久保公園：立体都市公園）

(D)　防災拠点（札場東公園：立体都市公園）

(E)　防災拠点（札場西公園：立体都市公園）

土地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討

土地区画整理事業（嵩上げ）

公営住宅等の整備検討
丸池公園周辺用地の有効活用

第１回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク２　復興パターン２案について意見を共有しましょう

★中学生意見

【第一案】	・100年後のさらに次の世代の事を考えると二線堤が良い ★地域全体を津波から守ることができる ★次の100年後に備えなくてもいいのではないか（過大） ★住んでいて安心感もあり、次の災害の時は復興も早そう ★コストやデメリットもあるが、確実にまちは守られそう
【第二案】	・防災拠点を作るなら、いつでも誰でも使用できるものにしてほしい ・公園に施設を建設した場合、遊ぶスペースが狭くなるのではないか ・公園と公共施設を組み合わせてにぎわい施設を整備したい ・二線堤を整備するより現実的ではないか ★元の場所に住めるので良い ★避難できる場所があれば高齢者も安心できる ★今の風景を残せるから良い ★慣れ親しんだ生活環境がいい
【共通】	・土地区画整理事業（特に減歩）について日頃から周知や勉強会を行う ・地権者が多いため、復興の際に時間がかかるのではないか ・土地区画整理事業を行う際は、憩いの場として公園を整備してほしい ・丸池公園を残してほしい ・今のにぎわいエリアを残したい ・にぎわいエリアを整備する際は、地域によって騒音などのデメリットが生じる場合もある ・メディアを使ってまちづくりを周知したらどうか ・事前に復興の仕方や課題を学んでもらう方が良いのではないか ・２案出来た背景を次世代につないでいく必要がある ・復興期間をできるだけ短くしたい ・復興する順番が重要である ・膨大な費用がかかるため、本当に実現できるか心配である ・復興パターンに選択肢があることを全員が把握する必要がある ★前の建物を残していると経済が発展しない



第１回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

意見に対する回答

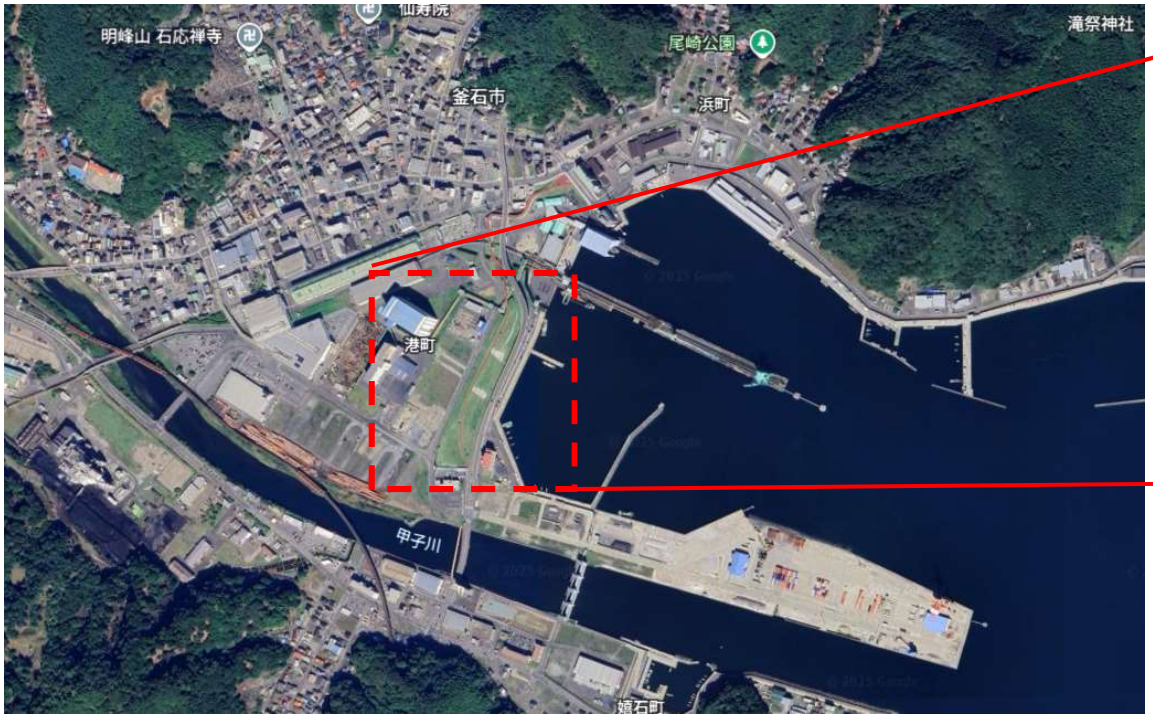
	No.	意見まとめ	回答
移転	1	二線堤外から堤内へ移転するのは、住民の負担が大きいのではないか	二線堤外の建築が制限される区域の土地や建物については、東日本大震災では、防災集団移転促進事業やがけ地近接等危険住宅移転事業の活用事例があり、法令に従って適正に算定し、買い取りや補償を行い、あわせて、引越し補助や利子補給制度等の支援がありました。 しかし、支援金や補償金だけでは再建費用を十分に賄えないケースがありますので差額負担を少しでも軽減するため、行政として各種の税制優遇措置、補助金制度、あるいは被災者再建支援策などの活用を検討し、最大限の支援体制を整える必要があると考えます。
二線堤防	2	二線堤を整備する傍にマンションがあるが、このルートで整備できるのか	二線堤のルートは、複数の案を比較検討した上で現在の案を選定いたしました。図面上でお示ししているのは事前の想定ルートであり、発災後の復興計画策定にあたっては、マンション等の立地状況を十分に考慮し、可能な限り影響が少なくなるようさらに詳細な検討を進めることになります。また、二線堤の海側（堤外地）は「災害危険区域」に指定され、1階部分のピロティ化など原則として建築制限を受けるエリアとなるため、実際の計画づくりにおきましては、地域コミュニティの分断に配慮しつつ、丁寧な説明やワークショップを通じて皆様のご意向を伺い、地域の安全確保と生活環境の両立を目指していくことになると考えております。
	3	二線堤を整備する際に影響するマンションの人は納得してくれるのか	
	4	江ノ口川から南側の区域では、河川側の本堤と二線堤の間の区域が狭く、本堤越流後の津波の貯留効果は限定されると考えられるが、低減効果の根拠も提示してほしい	本堤と二線堤の間隔はより広い方が、津波エネルギーの減衰効果等を期待できます。本計画の二線堤のルート設定におきましては、周辺家屋への影響等を総合的に考慮し、現在のルート案としております。東日本大震災の被災地においても、本堤と二線堤の近接施工した事例があり、現在の配置であっても一定程度の津波低減効果は発揮されるものと考えております。P.14参照
土地区画整理	5	若松町、青柳町の土地区画整理事業の範囲を広げてほしい	現地調査を行い、原案に新たに土地区画整理事業の範囲を追加しました。P.15参照
		土地区画整理事業の範囲を広げてほしい（南宝永町、日の出町、弥生町、丸池町）	
		嵩上げ範囲を広げてほしい（南宝永町）	
	6	江ノ口地区の区画整理のイメージがわかない（小規模で道路整備までできるのか）	土地区画整理事業のイメージについては、17ページに、東京都のマニュアルに示されている分かりやすい図を掲載していますので、ご参照ください。 また、土地区画整理事業は、宅地や道路の状況を総合的に勘案しながら実施するものであり、小規模な範囲での整備も含め、地域の実情に応じた柔軟な検討が可能です。さらに、必要に応じて、周辺の被災状況なども踏まえ、範囲を拡大して土地区画整理事業を行う場合もあります。

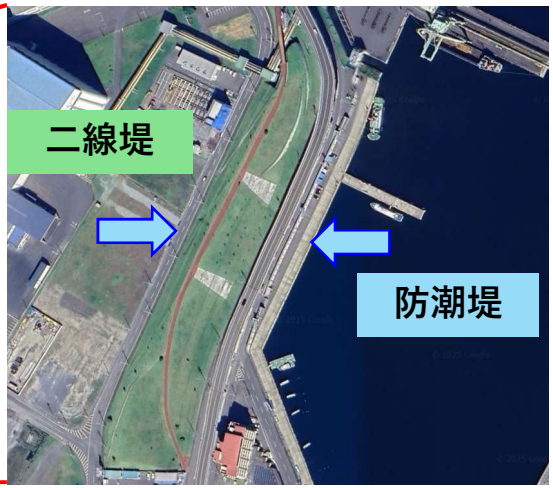
第１回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

意見に対する回答

	No.	意見まとめ	回答
にぎわい	7	移転元（青柳町）ににぎわい形成するのはどうか	東日本大震災の被災地、仙台市では、移転元地を市有地のまま民間に貸し付け、観光農園や温浴施設等の整備により新たな賑わいを創出しています。江ノ口川南側エリアにおいても、建築制限のある土地を地域の新たな価値に変える上で、親水公園と一体の「にぎわい形成エリア」として、民間活力の導入も視野に利活用の可能性を検討します。 P.18参照
	8	江ノ口川より南側ににぎわい形成エリアを整備したい	
	9	丸池公園周辺エリアをにぎわいエリアにしたい	丸池公園（災害公営住宅）の周辺における「にぎわいづくり」は、復興まちづくりにおいて重要なテーマの一つです。 先行事例といたしましては、住宅の敷地内に、住民だけでなく周辺地域の方々も利用できる「交流スペース」や「オープンスペース」を設け、日常的に自然と人が集まり、交流が生まれる仕掛けを施した事例がございます。こうした場が入居者と地域住民、さらには関係人口が混ざり合い、温かなコミュニティが育まれています。 こうした先行事例を参考に、「にぎわいと交流の場」を創出できるよう、検討が必要と考えております。 P.19参照
インフラ	10	丸池町-東雲町間の道を特に拡幅してほしい	現地調査を行い、検討を行いました。 P.20～22参照
	11	比島町周辺は道が広くなったらよいが、道路拡幅で土地が減る人もいる	
	12	行き止まり道があり、動線が悪い（北本町３丁目）	
	13	弘化台周辺の橋梁の耐震化を進めて、被災後に通行できる機能を確保したい。	橋梁の耐震化について、大規模災害時の避難や物資搬送において、橋梁の機能維持は極めて重要です。 中央地区の幹線道路（緊急輸送道路等）の橋梁については、落橋の安全性を確保する「耐震性能3」相当を確保しており、現在は、緊急輸送道路の橋梁において地震後に速やかな通行機能の回復を可能とする「耐震性能2」相当を確保するよう順次進めています。 また、被災後の生活をいち早く取り戻すためには、橋梁のみならず、水道や下水道などのライフラインを含めた早期復旧が不可欠のため、インフラ全体が粘り強く機能し続けるよう、計画的かつ継続的に耐震化対策を進めています。 P.23参照

二線堤整備事例(釜石市)　※防潮堤と二線堤が近接している事例





避難路機能を兼ねた防災緑地

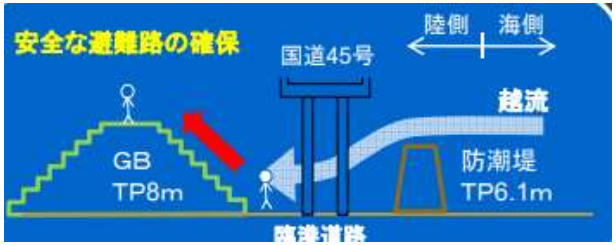


釜石市の防災緑地（三重の防護）

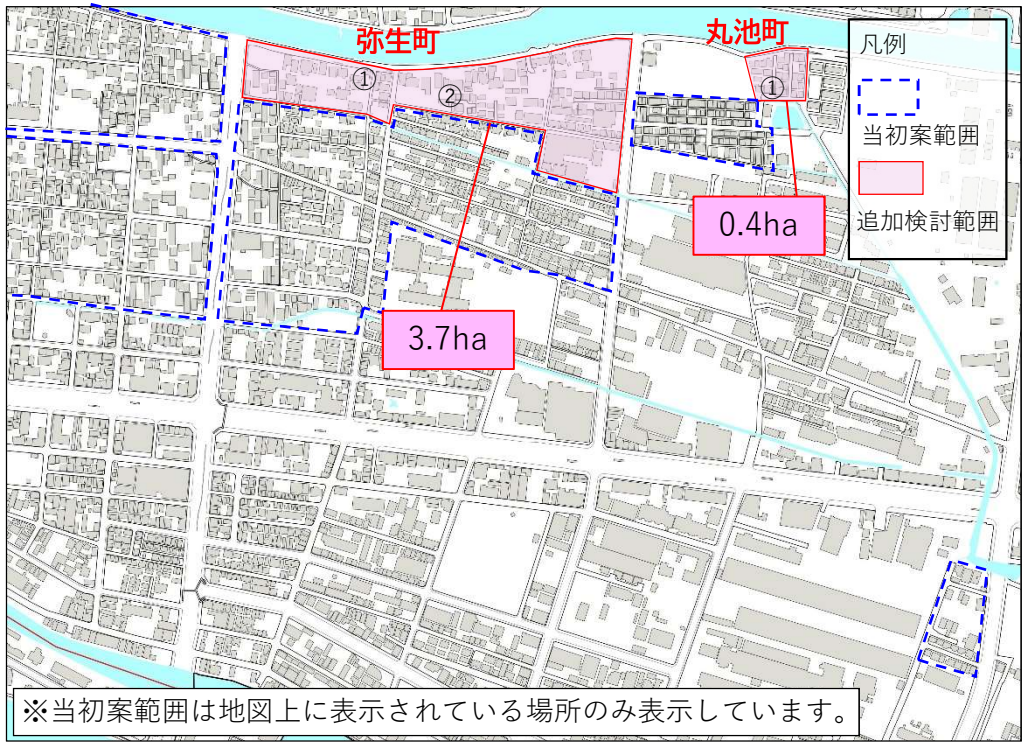


●概要

湾口防波堤や防潮堤、避難路を兼ねた防災緑地の三重の防護により津波の減勢を図る。



修正パターン【土地区画整理事業範囲の検討】



調査結果まとめ

町名	過去の区画整理	周辺の建物	生活道路	判断
弥生町	なし	木造住宅多い	狭い私道あり	土地区画整理事業範囲追加あり（3.7ha）
丸池町	なし	木造住宅多い	一部狭い	土地区画整理事業範囲追加あり(0.4ha)

弥生町





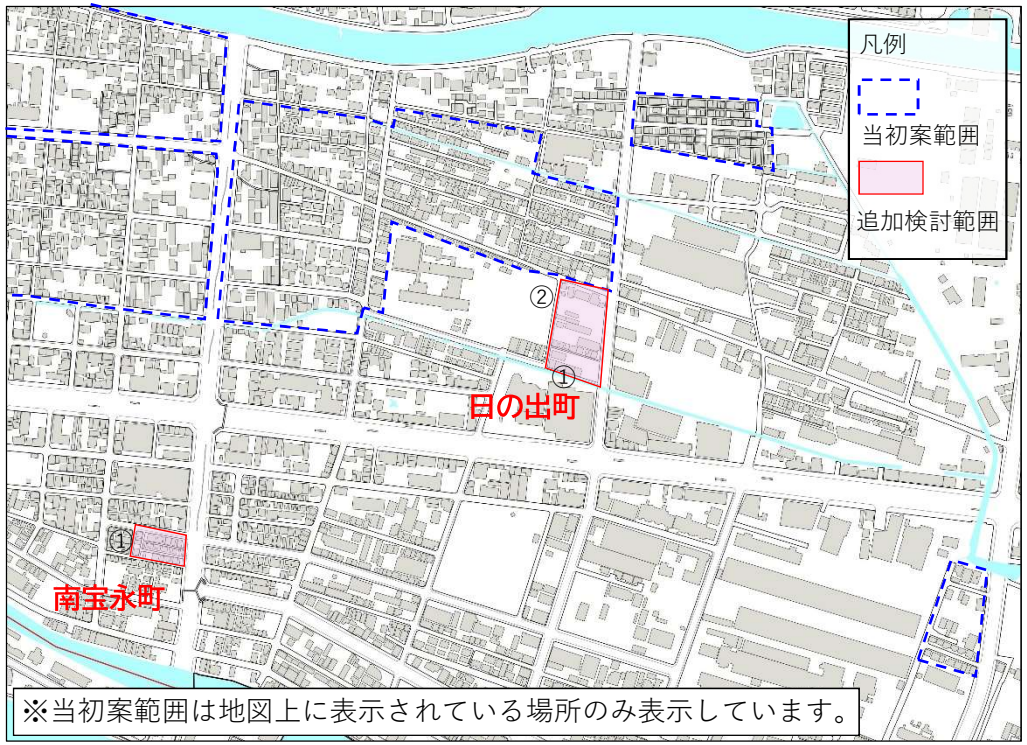
当初は津波浸水深が浅く、想定される家屋被害が少ないことから、現地再建を想定していましたが、現地調査で幅員4m未満の道路や私道が多いという防災上の課題を確認したため、土地区画整理事業の検討範囲に加えました。権利関係への影響が大きい事業であるため、想定被害の低さも考慮し、地域の皆様の意向を確認し進めていく必要があると考えております。

丸池町



現地調査で、概ね幅員4.0ｍはあるものの一部4.0m未満の箇所もあり、津波浸水リスクや家屋状況等防災上の観点から、発災後のまちの再編を検討する必要性が高いと判断し、土地区画整理事業の範囲に加えて検討を進めることとします。なお、本事業は生活への影響が大きいため、皆様と十分な話し合いを重ね、合意形成を図る必要があると考えております。

修正パターン【土地区画整理事業範囲の検討】



調査結果まとめ

町名	過去の区画整理	周辺の建物	生活道路	判断
日の出町	なし	一部木造住宅	一部狭い	土地区画整理事業範囲追加なし
南宝永町	あり	木造住宅多い	狭い	土地区画整理事業範囲追加なし

南宝永町

①



②



当該エリアは狭い生活道路や木造家屋が密集しているが、過去に区画整理事業を実施していることや、発災後の道路幅員確保の見通し等を踏まえ、土地区画整理事業の範囲には加えないことと判断しました。なお、本地域の防災性向上は重要であるため、ご意見として承ります。

日の出町

①



②

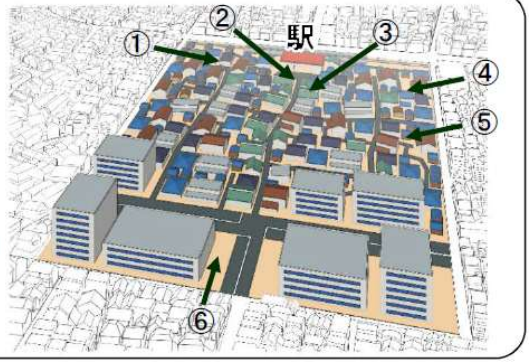


当該エリアは一部狭い道路や木造家屋が存在するものの、全体的に堅固（コンクリート造）で新しい建物が多く、被災後の土地区画整理事業は必要ないと判断しますが、小学校東側南北の水路に蓋掛けをすることで、歩道空間を確保した安全性の向上を図ることができるのでご意見として承ります。

復興土地区画整理事業の流れについて

現況

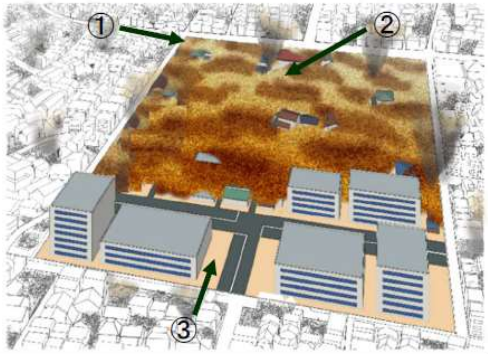
① 拠点の位置付けがある
② 駅前空間が未整備
③ 有効利用されていない土地
④ 基盤未整備・耐震化率が非常に低い
⑤ 老朽化した木造密集市街地
⑥ 基盤概成地域も混在



V

被災状況（想定）

① 建物の壊滅的被害
② 駅前地区の壊滅的被害
③ 基盤概成地域は被害が小さい



復興途中

① 市街地再開発事業施行区域の設定
② 被災地短期借地による
時限的市街地の整備



復興後

① 拠点にふさわしい魅力ある
地域の形成
② 拠点交流施設の整備
③ 駅前広場の整備
④ オープンスペースの整備
⑤ 建物の不燃化、耐震化、
高度利用化
⑥ 歩行者空間の整備



出典元：東京都市街地の事前復興の手引きより



防災集団移転跡地利活用　–事例–

沿岸部の災害危険区域内において防災集団移転促進事業により仙台市が買い取った土地（集団移転跡地）について、新たな魅力を創出する場としての活用を目指し、意欲ある市民や事業者に土地を貸出し、民間の自由な発想で主体的に使っていただくことを基本としながら、多くの方々に親しまれる土地利用が行われています。

せんだい海浜エリア



海浜エリアは、太平洋に面した仙台市東部に広がる**沿岸部一帯**を指し、東日本大震災では甚大な被害を受けましたが、復興が進み、新たなスポットが続々と登場し話題を集めています。



防災集団移転跡地を含む一体を観光プロモーションし新たなにぎわいの創出を行っています。



EastCoastPark

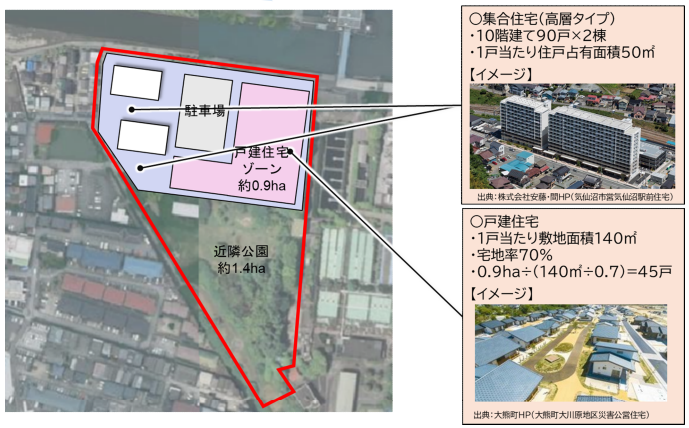


2面のバスケットボールコートにカフェとジムが隣接しており、個人利用にも開放している。
休日は各種大会・ヨガ・マルシェ等多彩なイベントを開催しています。





丸池公園周辺エリアを「にぎわいエリア」にしたい



【参考】丸池公園周辺の土地利用イメージ（集合住宅＋戸建て住宅供給パターン）

過去の災害からの事例を紹介します。

災害公営住宅（復興公営住宅）の周辺で「にぎわいづくり」やコミュニティ活性化を行った事例として、敷地内への交流スペース・集会所・オープンスペースの設置と開放を行い、入居者と地域住民・関係人口が自然に立ち寄れる仕掛けで、にぎわいとコミュニティを生みました。

① 宮城県大崎市（七日町災害興公営住宅）



出典：月刊「地域支え合い情報」vol.32

公営住宅の広場と集会所（写真奥）で開かれた交流イベントの様子

災害公営住宅を核に地域活性化

○取り組み

中心市街地活性化計画の「駅サイト居住ゾーン」に指定された場所に災害公営住宅の集会所とポケットパークを整備。

○にぎわいの仕組み

店舗が立ち並ぶ通り沿いに、あえて 集会所とポケットパーク（小さな公園）をセットで配置。入居者だけの閉じた空間にせず、周辺を通る地域住民や若者が自然と立ち寄り、日常的な会話や交流が生まれる仕掛けを実施。

② 熊本県宇城市（響原復興住宅）



出典：大和ハウス工業株式会社　ホームページ



出典：UR都市機構ホームページ

木造集会施設「みんなの家」の移設・利活用

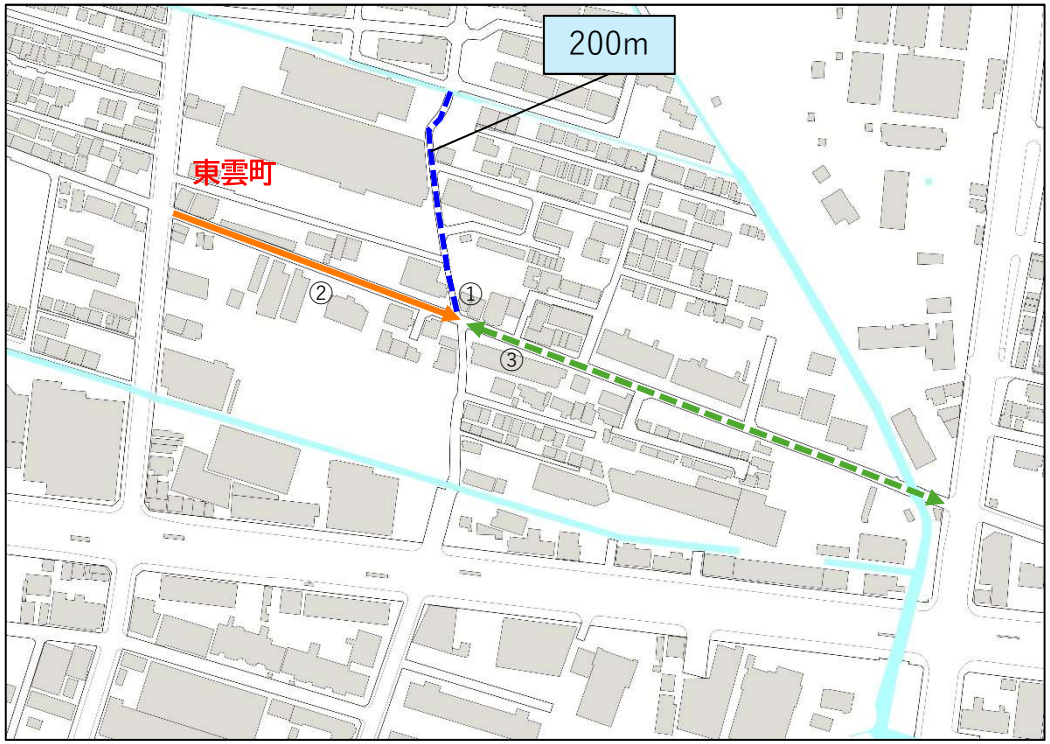
○取り組み

熊本地震の仮設住宅群で使われた木造集会施設「みんなの家」2棟を、災害公営住宅団地の隣接地に移設・合築して地域の集会所に再生。

○にぎわいの仕組み

特徴の「大きな土間空間」を活かし、靴を脱がず気軽に立ち寄れるサロンとして運営。
災害公営の入居者と旧住民が合同イベントを行う新たな拠点となっている。

修正パターン【道路拡幅等の検討】



東雲町（ ┈┈ 狭い生活道路［市道下知104号線］）

①



①



市道下知104号線を調査した結果、交差点付近に道幅が4mに満たない狭い箇所があり、幅員不足により日常的な交通に支障が出ている状況です。災害時の安全な避難や緊急車両の通行路を確保し、何より地域の皆様が毎日安心して通れるように、道路の拡幅は重要な課題だと認識しています。今後、関係部署と連携し、実現可能な拡幅の方法について協議を進めてまいります。

東雲町（⟶ 一方通行区間）

②



この道路は多くの方が利用し、また、お子様の通学路でもあるため、グリーンベルトも設置された重要な道路となっております。現在の道幅は防災上の最低基準を満たしておりますが、将来的に拡幅するには、沿道の皆様のご協力や合意が不可欠です。いただいたご意見を元に、引き続き慎重に検討する必要がありますので、ご意見として承ります。

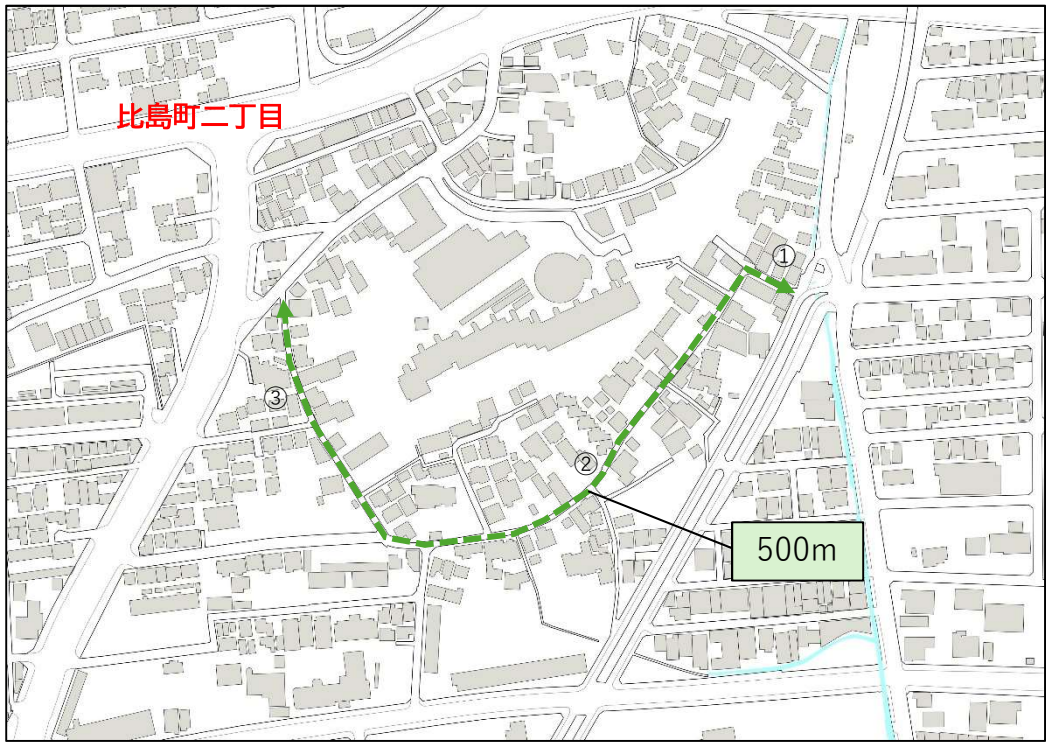
東雲町（┈┈▸ 双方向通行区間）

③



当該路線の通過交通や安全性に対して、一方通行化については、近隣住民への交通転換など影響が大きく、また、車の速度が上がることによる、歩行者の危険が増す懸念や、緊急車両の通過効率の低下といった課題もあります。
被災後のまちづくり計画にあたっては、データ分析や警察との協議により地域にとって最適な検討を行う必要がありますので、ご意見として承ります。

修正パターン【道路拡幅等の検討】



調査した結果、歩行者専用道路は道路幅4.0m未満であり、災害時の安全な避難や緊急車両の通行路を確保し、何より地域の皆様が毎日安心して通れるように、道路の拡幅は重要な課題だと認識しています。今後、関係部署と連携し、実現可能な拡幅の方法について協議を進めてまいります。



比島町二丁目（◂┄▸　歩行者用道路区間）

①



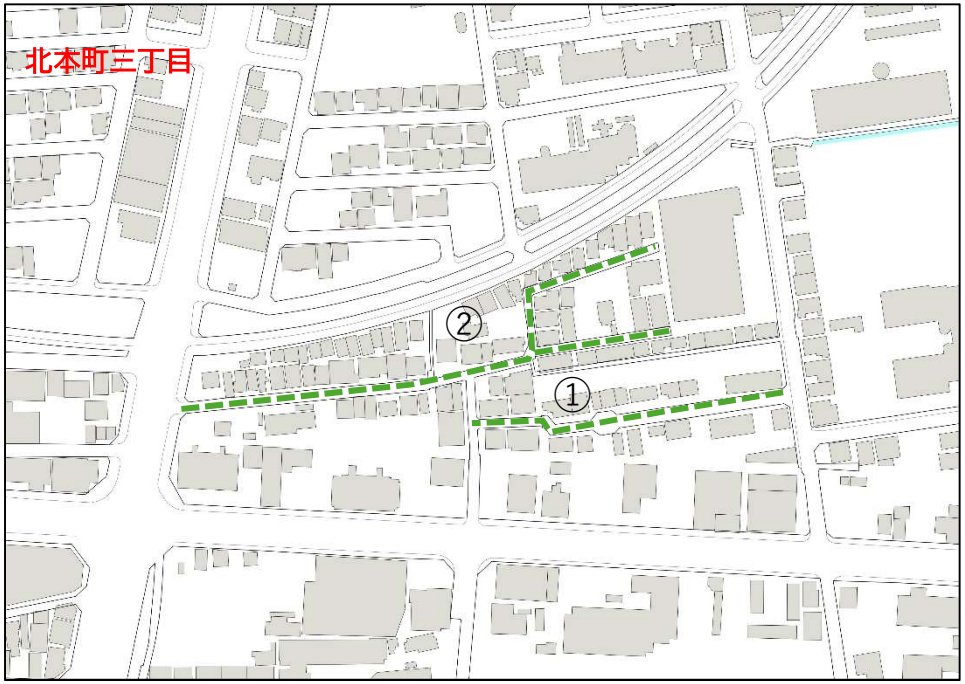
②

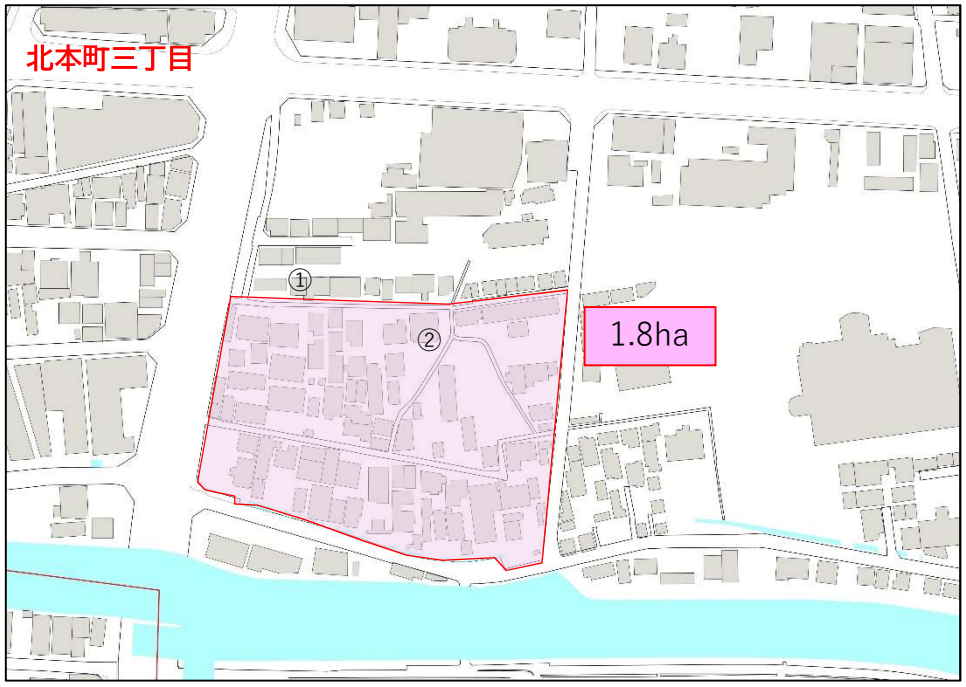


③



修正パターン【土地区画整理事業、道路拡幅等の検討】





北本町三丁目

①



②



当該地区の道路は概ね４ｍ以上の幅員が確保されており、また現在の被害想定も比較的低いことから、現時点においては土地区画整理事業を実施する必要性は低いと判断いたしました。ただし、地区内の行き止まり道路については、災害時の避難環境の観点から課題があると認識しておりますので被災状況を見据えつつ、今後のまちづくりの方向性について、住民の皆様のご意見を伺いながら進めていく必要があると考えております。

北本町三丁目

①



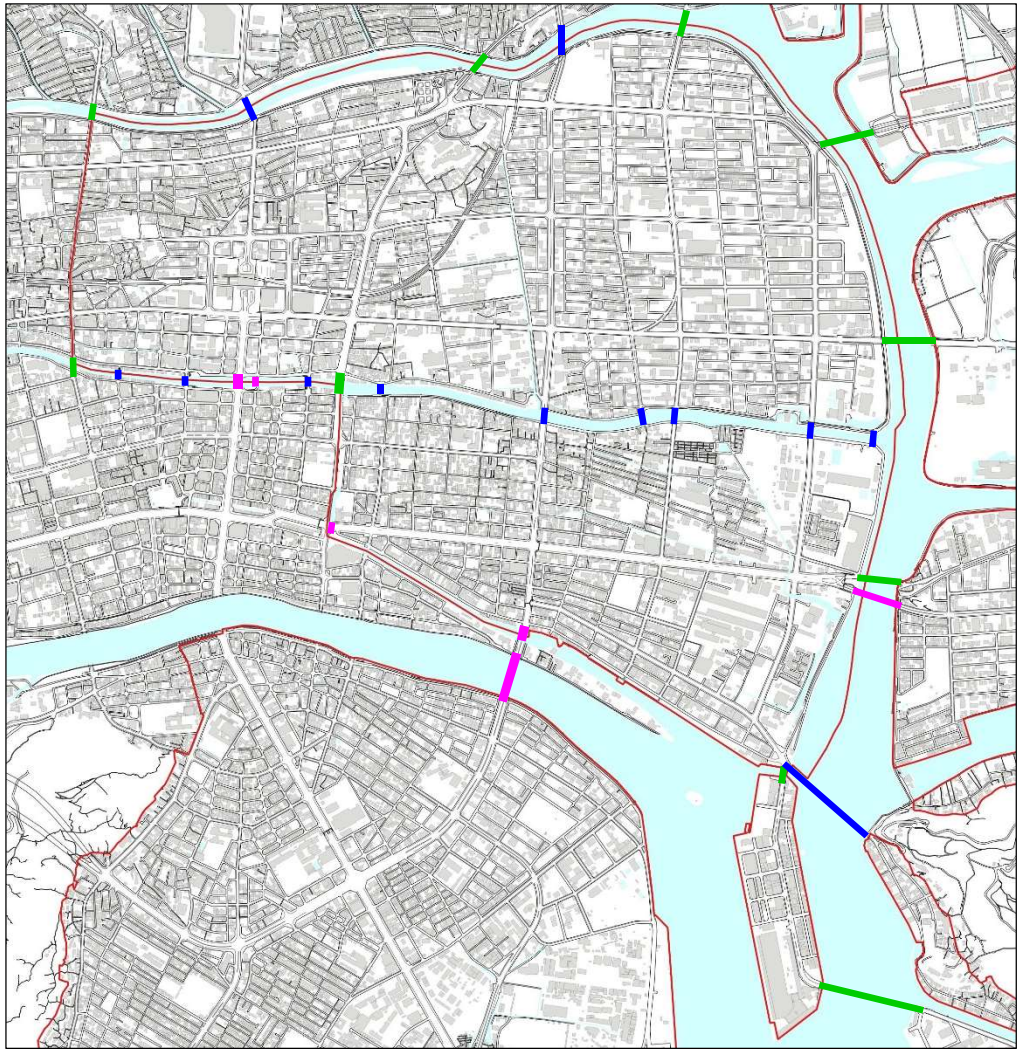
②



当初は津波浸水深が浅く、想定される家屋被害が少ないことから、現地再建を想定していましたが、現地調査で幅員4m未満の道路や私道が多いという防災上の課題を確認したため、土地区画整理の検討範囲に加えました。権利関係への影響が大きい事業であるため、想定被害の低さも考慮し、地域の皆様の意向を確認し進めていく必要があると考えております。

町名	過去の区画整理	周辺の建物	生活道路	判断
北本町三丁目	なし	木造住宅多い	狭い	土地区画整理事業範囲追加あり（1.8ha）

橋梁の耐震化状況



中央地区の橋梁の耐震化を進めて、被災後に通行できる機能を確保したい。

津波の影響に対する橋の破壊形態　（2011年東北地方太平洋沖地震）





橋梁の耐震化について、大規模災害時の避難や物資搬送において、橋梁の機能維持は極めて重要です。
中央地区の幹線道路（緊急輸送道路等）の橋梁については、落橋の安全性を確保する「耐震性能3」相当を確保しており、現在は、緊急輸送道路の橋梁において地震後に速やかな通行機能の回復を可能とする「耐震性能2」相当を確保するよう順次進めています。
また、被災後の生活をいち早く取り戻すためには、橋梁のみならず、水道や下水道などのライフラインを含めた早期復旧が不可欠のため、インフラ全体が粘り強く機能し続けるよう、計画的かつ継続的に耐震化対策を進めています。

国管理
- 新葛島橋
- 木屋橋
- 鏡川大橋　など



県管理
- 曙大橋
- 愛宕大橋
- 新青柳橋　など

市管理
- 海老ノ丸橋
- 薊野大橋
- 一文橋　など





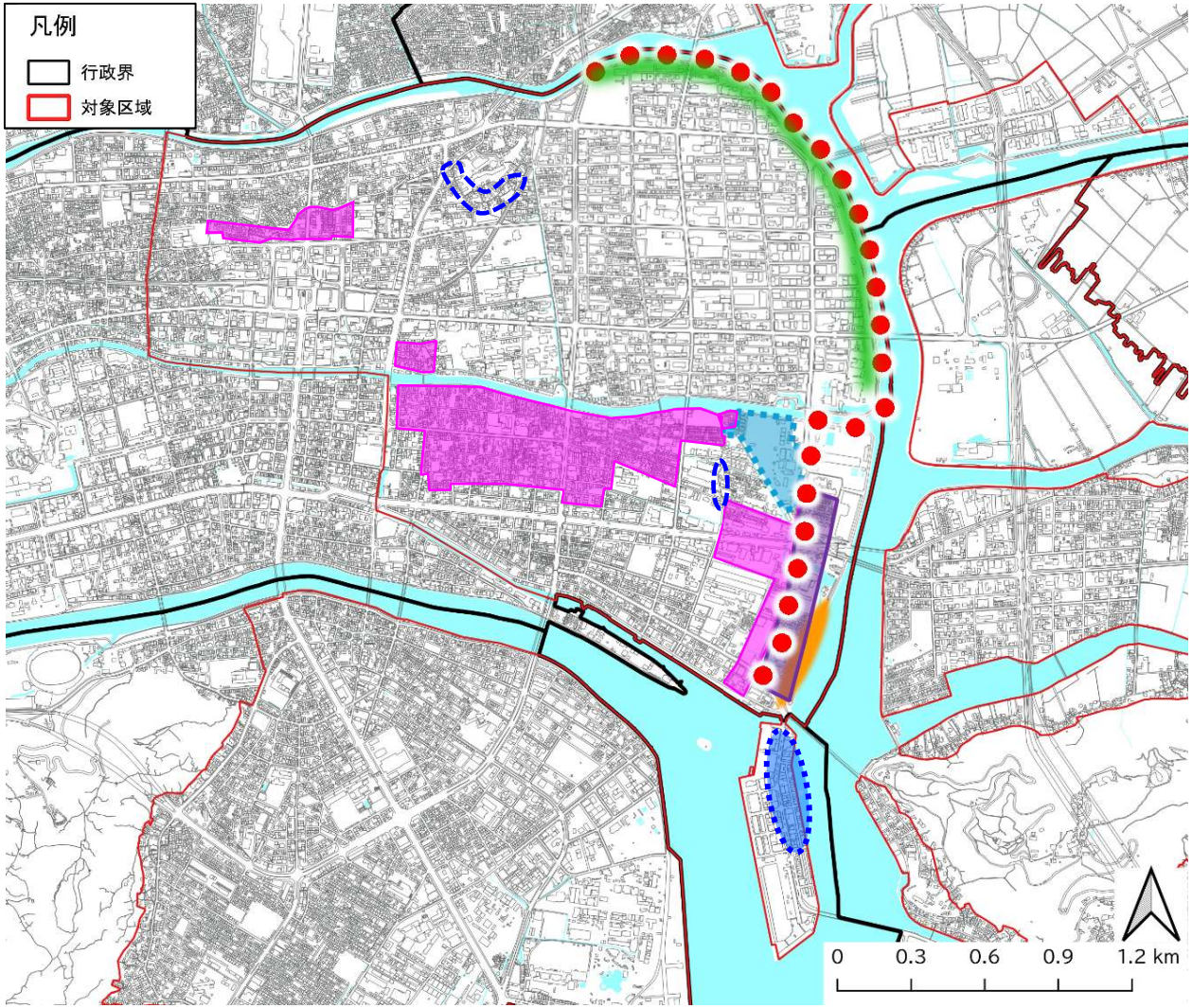


修正復興パターンについて

修正復興パターン２案について意見を共有しましょう

【第１案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



土地区画整理事業
道路基盤整備検討（一部範囲追加）

移転元　内陸移転

移転先　丸池公園周辺用地の有効活用
空き家を活用した差込み移転

移転元地の有効活用
工業系移転候補地として活用

にぎわい形成
二線堤を活用した、かわまちづくりの検討

二線堤

道路拡幅整備の検討

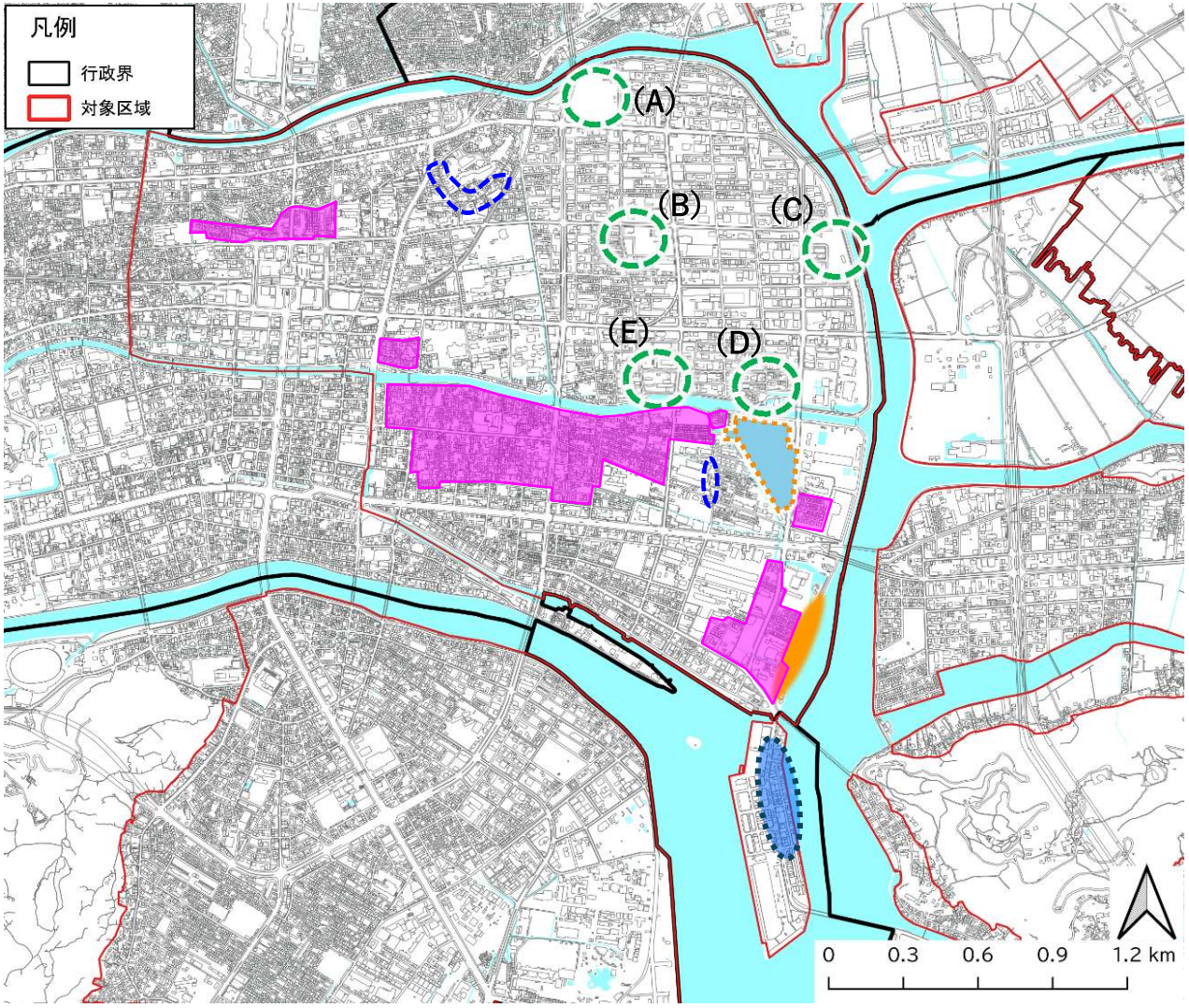
にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討

修正復興パターンについて

修正復興パターン２案について意見を共有しましょう

【第２案】現地再建案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



(A)　防災拠点（弥右衛門公園）

(B)　防災拠点（北御座公園：立体都市公園）

(C)　防災拠点（南久保公園：立体都市公園）

(D)　防災拠点（札場東公園：立体都市公園）

(E)　防災拠点（札場西公園：立体都市公園）

土地区画整理事業（嵩上げ）
道路基盤整備検討（一部範囲追加）

土地区画整理事業（嵩上げ）

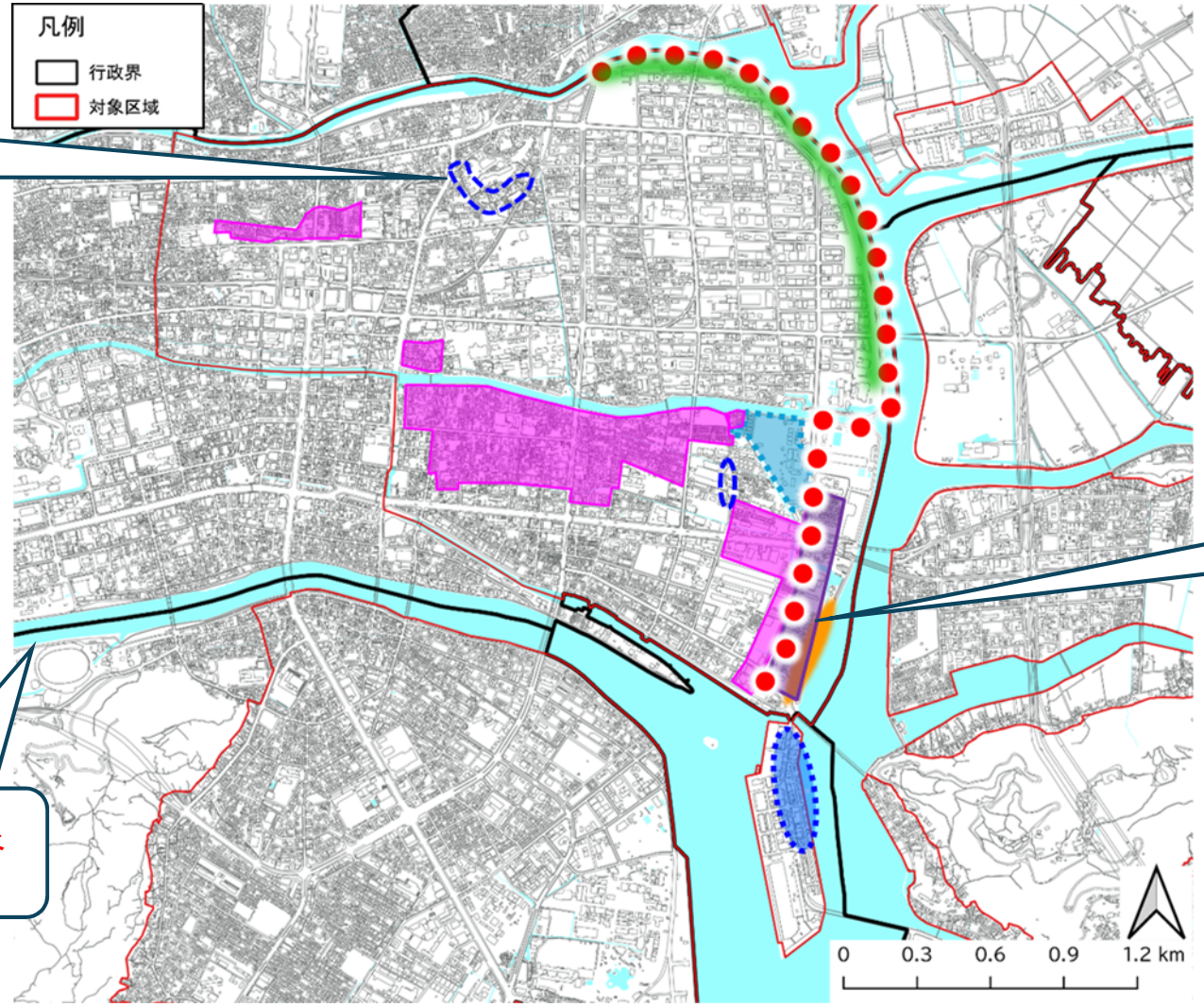
公営住宅等の整備検討
丸池公園周辺用地の有効活用

道路拡幅整備の検討

にぎわい形成の検討
親水公園と一体的な活用の検討

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

意見交換：修正パターンについて、意見を共有しましょう。



道路が広くなり住みやすくなりそう

前の案より良くなった！



新たなにぎわいの場が楽しみ！

第３回へ意見反映

ワーク４

速やかに復興するために必要なことってな～に？

①住民ができること

例）

・事前復興に関する勉強会
・再建の知識向上
・被害想定の把握
・復興計画の周知
・土地の相続登記



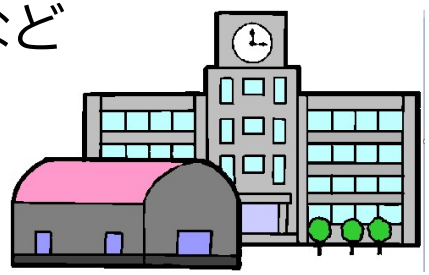


②行政にしてほしいこと

例）

・公共施設の復旧
（ふれあいセンターなど）
・観光地を優先して復興
・商業施設への復旧のための補助金など







まとめ　①
　　②
　　③

第３回でまとめ

次回開催のご案内

第２回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

日時：未定
開催場所：未定
} **決定し次第、案内を送付いたします。**

実施内容（予定）
- **第２回の振り返り**
- **意見交換：最終案（修正復興パターン）について**
- **ワーク５：災害が起きる前からできることについて、意見を共有しましょう。**
- **まとめ**

ワークショップのほか、ホームページ上に掲載した意見投稿プラットフォーム、地域の窓口等でも意見を募集していますので、地域の方へのご周知のほどよろしくお願いいたします。

意見投稿用紙配置場所

中央地区各窓口
下知コミュニティセンターアイジス、弥右衛門ふれあいセンター
土佐建機江ノ口コミュニティセンター、高知市文化プラザかるぽーと
京町商店街タウンモビリティステーションふくねこ

意見投稿プラットフォームはこちら